



「私は、この人を知っている。なぜだ。なぜこんなことになったんだ。」
真っ白な雪の地面に横

高橋 望

『災害交差点』

平成十八年二月十七日、秋田市文化会館小ホールで第二十九回消防職員意見発表会秋田県大会が開催され、前年度「つながり」で最優秀賞を受賞されました秋田市消防署新屋分署の高橋望さんが今年度は外旭川分署から県大会に選ばれ、「災害の交差点」で最優秀賞として再び栄光の座を射止めた。四月二十七日の青森県で開催される東北大会の代表になれるよう、そして六月七日に開催される全国大会においても優秀な成績を納めることを期待している。



第二十九回
消防職員意見発表
秋田県大会行われる

たわり、黒く焼け焦げてしまった男性の姿を見て、私は愕然としました。
なぜなら、数日前、この男性の友人も焼身自殺を図って命を絶っており、この時出動した際、私がこの男性に、聞き取り調査を行っていたからです。
当時男性は、友人の変わり果てた姿を目の当たりにし、悲しみをこらえながら、絞り出すような声で、話してくれていました。しかし、あれ程友人の死を悼んでいたのに、なぜ自らも、同じ選択をしなければならなかったのか。
また聞き取り調査の際に、悲しみの中で対応していたこの男性を、私がかもつと勇気づけることができたのではないか。そう思ったのです。
市民の生命や財産を守ることが消防の任務であり、それに憧れて、私は、消防士になりました。しかし今こうして、友人の死をきっかけに、自らの命をも絶った人を目の前にしている。この事実が悲しくてたまりませんでした。
私は、この出来事がきっかけとなり、災害現場で不安な気持ちを抱く、被災者の方々との接し方について、深く考えるようになりました。
私たち消防職員にとって、被災者との接触は、形を変えた接遇、そして市民サービスの舞台であると思うのです。その接遇の窓口には、精神的に追い詰められ、悲しみに暮れた人たちが訪れるのです。

この時の、私たち消防職員による対応が、極限状態に追い詰められた彼らの気持ちを大きく左右すると思うのです。
また、消防にとって、災害現場では、当然ながら被災者の人命救助が最優先です。しかし、そこに人命が存在するということは、同時に人間の心があるということでもあります。人命とともに、その傷ついてしまった心をも、救助することが、大切な仕事のひとつだと考えています。
昨今の多様化する各種災害には、残念ながら、この接遇の対応マニュアルが存在しません。しかしながら、日頃から職員同士での定期的な話し合いや、救急隊員からは傷病者への接し方を学ぶことによって、微力ながらも、解決の糸口を見い出すことにつながるのでないかと思えます。
つまり、被災者やその関係者の方々の心、少しでも安堵させてあげられたら、またその中でたった一人でも、命を投げ打とうとする方が軽減されるのなら、そこには確かな価値が存在するのではないでしょうか。
平穏な日常と、災害という非日常が行き交う、災害現場という交差点。そこで、私たち消防が、被災者と同じ目線で接することができたならば、本当の意味での市民サービスが確立するのだと思います。
私はいつかこう言われるのが目標です。「消防士さんのかけてくれた言葉で、元気づけられたよ。」



題 字
初代会長 松野 盛 吉
定 価 1部 5円
(購読料は年会費に含む)
発行人
〒010-0001
秋田市中通4丁目3-23
秋 田 県 消 防 協 会
会 長 中 泉 松 之 助
電 話 018-832-3791
FAX 018-834-2706
印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760

平成十八年四月二日から四月八日まで
平成十八年春の火災予防運動期間です。

新消防長紹介

能代山本広域市町村圏組合消防本部



消防長
日 沼 一 之

(ひぬまかずゆき)

昭和二十六年十二月七日生まれ(五十四歳)
昭和四十七年六月一日能代地区消防署北部分署に消防士として採用される。消防副士長、消防士長を経て、昭和五十八年四月一日消防司令補・能代地区消防本部・予防課予防兼調査係長、九月一日北部分署長、平成八年四月一日消防司令、北部分署長、平成九年四月一日能代地区消防本部予防課長、平成十四年八月一日同・総務課長、平成十六年四月一日消防司令長・能代地区消防本部・次長兼署長、平成十八年一月一日消防監、能代地区消防本部消防長、平成十八年三月一日二ツ井藤里地区行政組合消防本部、能代地区消防一部事務組合消防本部、山本郡南部地区消防本部が統合となった能代山本広域市町村圏組合消防本部の消防長に就任する。

消防団幹部特別研修に参加して

平成十八年一月十七日から二十日まで、日本消防会館で行われた日本消防協会主催の第三十二回消防団幹部特別研修に参加された仙北市田沢湖消防団長大石正文氏から報告をいただきました。

『消防団幹部特別研修に参加して』



仙北市田沢湖消防団長 大石 正文

消防団の災害対応能力の向上と活性化を図り団の指導者を養成することを目的に「幹部特別研修」が一月十七日から二十日まで日本消防会館で開催され、各都道府県から一名の参加、秋田県消防協会長の選考により不肖私が受講することになりました。ここ何年来、講義とか研修とかの機会から縁遠くなつていて、計画されている数々の講義に対応出来るのかという心配を胸に上京しました。

一日目、研修課題討議、研修案内があり、研修生の心得や期間中の服装の統一、幹部としての責任の自覚と誇りをもつた行動等、身の引き締まる思いで初日は終了しました。

二日目、オリエンテーションに続いて消防庁長官、日本消防協会会長、同理事長の方々のご臨席を頂いて開講式が行われました。

会長訓話のなかで「自己利他」つまり世のため他人のために・・・「あの団長で良かった」と言われるような団長になってほしい。そのためには・・・と、考えさせられる内容であり、大変参考になりました。また理事長講話では「災害対応は、なんと言っても消防団しか無い」「分団という組織が大事」「分団が基幹」「たよりは消防団」と、私たち消防団の有り難さを数々の

例を挙げて話してくれました。

いよいよ「日本の救急医療の問題点」と題し、救急医療の権威聖路加国際病院理事長の日野原重明氏の講義から始まりです。内容はもとより話し方の元気さも、とても九十四歳とは感じられない素晴らしいもので感銘致しました。

医療は世界一なのに救急、救命医療は二流三流だとか、医師がいないため行えない行為など旧態依然の法律が現行しているとか、救命技術があつてその証明があればその行為を行つてもよいという法律がほしいとか。

「お医者さん居りませんか」という放送があつた時、看護師や証明を持った技術者とかは来たことがない。「医者ではありませんが、私の出来ることでよろしいでしょうか」と、対応できる場合もあるのではないかと、救急救命に大変重要なことばかりで、こうしたことによつて一人でも多くの人命が助かることの重要さを感じた講義の一つでもありました。

やがて二日目の講義終了後各要職の方々を囲んでの意見交換会がホテル「虎ノ門パストラル」のオークという会場で開催されました。

北から南の各都道府県からの参加幹部諸氏との交流会、最初は近隣各県の団長さん方との語らいと名刺交換から進み終宴近くには殆どの方々と交歓が出来ました。

特に、平成十七年七月に行われた秋田県消防大会の時に講演を頂いた日本消防協会理事長の秋本敏文氏との交歓ができ、秋田県消防大会の内容はもとより今年から始めた「意見発表」の事も御記憶頂き、中でも私がその発表の一部を担ったことも思い出して頂き、大変有意義な交換会でありました。

各教科、教養全てについて、その内容、感じたことを申し述べればよいことですが、紙面の関係から割愛させて頂きますが、最後に一教科、「消防団実務」では各種、各項目を事例を挙げて詳細に御指導、御教授を頂くことができました。

今後の地域防災力の向上、出火防止の推進、危機管理意識の醸成、現在の複雑多岐にわたる災害への対応、最近特に「惨事ストレス対応」など防災リーダーとしての意識の涵養と自己研鑽が大切・・・と、今後消防団幹部としての進むべき方向の一部が見えてきたように感じ益々精進する覚悟を新たにしました。

研修も終盤、研修生四十七名全員無事修了証を受領し閉講。またいつの機会にか逢える事を期待して解散となりました。終わりにこのような研修の場を作つて下さいました日本消防協会、総務省消防庁、県消防協会に心から御礼を申し上げ「第三十二回消防団幹部特別研修」の報告と致します。

平成十八年度春の火災予防運動が始まります

平成十八年四月二日(日)から四月八日(土)まで

家庭では

- 寝たきり又は一人暮らしの高齢者、身体不自由者の方々に住宅火災から守りましょう。
- 「住宅防火診断」を受けて、我が家の安全度をチェックしましょう。
- 住宅用火災警報器など「住宅防火安心マーク」の表示された住宅用防災機器等を備えましょう。
- 消火器等の破裂による事故を防止するため、老朽化した消火器等は処分し、住宅に適した消火器等を使用しましょう。
- 家のまわりに燃えやすいものを置かないようにしましょう。

職場では

- 防火優良認定証又は防火基準点検済証(防火セーフティマーク)の確認をしましょう。

株式会社タカギ

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182) (32) 3880

(営業種目)

- | | |
|------------|---------|
| 日本機械自動車ポンプ | キンパイホース |
| トーハツポンプ | シバラポンプ |
| 各種消防機械器具 | 各種消火器 |
| 消防設備保守点検 | |

平成十七年度全国消防団員意見発表会が開催され 本県からは鹿角市消防団班長阿部國博氏が発表



平成十八年二月二十四日、日本消防会館「ニッショヨーホール」で第一部の全国消防団員意見発表会、第二部の消防団活動事例報告及び消防団ビデオ上映会、そして第三部では消防団地域活動表彰・消防団員意見発表

表彰・平成十七年災害活動表彰の式が行われた。

消防団員意見発表会は平成十四年度から始まり初年度は十一都府県、十五年度は十二県、十六年度は十二道県、十七年度は十二県となり、四年間で47都道府県が終了した。この度、四回目で発表の機会に巡り合った本県では、鹿角市消防団の班長阿部國博氏が福島県の消防団員と共に北海道・東北ブロック代表として参加され、優良賞を受賞された。発表内容はつぎのとおりである。

『全国の消防団員の仲間との出会い』



私は、高校を卒業すると同時に「消防団員」となりました。あれから早いもので20年の月日が流れ、いささか慢心さを感じ始めていた。昨年2月に開催された「第4回消防団幹部候補中央特別研修会」に参加し、今、まさに消防団として取り組

まなければならぬ課題について、時間が経つのも忘れ、全国の若い消防団員の仲間達と真剣に熱く討議を重ねるうちに、忘れていた昔の自分を思い出しました。

あれは、私が消防団に入団して3カ月目のある日のことでした。忘れもしないその日は、地域のお祭りの日でした。温泉街にある祭りの会場には、賑やかに夜店が軒を連ね、私も青年会の出店で焼き鳥を焼いて汗を流しました。そこには、行き交う人々の笑い声や、笑顔があふれ、本当に楽しい一日でした。やがて、楽しかった一時も過ぎ、私も自宅に戻りすっかり眠りについて未明のこと、突然のサイレンの音にびっくりして飛び起きました。私にとつて、消防団員となつて初めての火災でした。慌てて外に飛び出すと、なんと火災は、紛れもなく私の幼なじみの親友の家でした。驚きと緊張で喉がカラカラになり、頭の中が真っ白になりました。

初めての火災現場に到着すると、すでに建物全体が真っ赤に燃え、窓という窓からは、激しく炎が真横に噴き出し、思わず緊張と火の怖さに足がすくみました。「まだ、中に娘が二人いる」という家族の悲痛な叫び声が聞こえました。私は、「何かの間違ひであつて欲しい」と、そう願ひながら、無我夢中で消火活動を行いました。やがて鎮火し、そして夜がようやく明けそうになつた頃、親友の小学生と中学生になる妹さん二人の遺体が見つかりました。ほんの少し前、私の焼いた焼き鳥を何回も買いに来て、笑顔を振りまきながら、あんなに楽しそうにしていたのに・・・涙をこらえることが出来ませんでした。

それから眠れない夜が一週間以上も続き、こんな思いをするぐらいなら、消防団を辞めようかと真剣に悩み苦しみました。しかし、「もう二度と自分の地域からこの

地域では

- 防火管理者を選任し、消防計画に基づき消火訓練や避難訓練を実施しましょう。
 - 消防用設備等は常に点検整備を行い、いつでも使えるようにしましょう。
 - 夜間における防火管理体制の整備を図りましょう。
 - 工場、倉庫でも火気及び収容物などの管理を徹底しましょう。
 - 工事等における火気管理及び火気取扱における注意を徹底しましょう。
- 防火に関する講習会や映写会を開催し、火災予防の正しい知識を身につけましょう。
- 幼年、少年消防クラブ、婦人防火クラブを結成し、火災予防意識を育てましょう。
- 大規模地震の発生による火災等の危険性から地域社会を守るため、自主防災組織をつくりましょう。
- 自主防災組織等により、初期消火、救出訓練、避難、通報連絡、情報伝達等を中心とした各種訓練を実施しましょう。
- 放火を防ぐため、周辺地域住民による防火意識の醸成に努めましょう。

ような悲しい出来事は無くさなければならぬ。そういう思いがこみ上げ、現実から逃れようとした自分が恥ずかしく思え、再び消防団員として頑張ろうと、その時固く決意したのでした・・・

忘れかけていた20年前のあの気持ちを思い起こしたのです。

いくら努力しても、災害は、避けて通ることが出来ないかも知れません。しかし、消防団活動の仕方によっては、地域から悲惨な災害を減らすことが出来るのではないのでしょうか。そのためには、災害時の活動だけではなく、消防団がそこに住む人達と密接に関わり、火災予防運動や自主防災活動を通して「自分の住む地域は自分達を守る」という意識を広く住民に徹底させる必要があると考えます。そして何より、若い消防団員がこうした考えを持たなければならぬのです。

私は、全国から集まった消防団員の仲間との出会いから、日々の漫然とした生活の中で失いかけていた消防団員としての自分を取り戻すことが出来ました。熱く語りあつた仲間達が今日もどこかで頑張っています。私も彼らに負けないよう、消防団員としての誇りを胸に日々の努力を絶やすこと

なく、地域のために頑張つていきます。そして、これからも消防団員となつたばかりの、あの遠い日の思いを忘れることな

トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ
消防被服全般
秋田県代理店

総合防災設備センター

株式会社 高義商会

(営業種目)

- トーハツ小型動力ポンプ
- モリタ自動車ポンプ
- ジェットホース各種
- 消防被服各種
- 消防報知器各種
- 消火器各種

〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32
TEL(0183)(42)2125

〒019-0504 十文字町本町
TEL(0182)(42)0032

〒012-0844 湯沢市田町
TEL(0183)(73)2588

男鹿潟上南秋支部 消防団員教養研修開催

平成十八年二月十二日、道路上では地ふぶきが舞い、身の引き締まる寒い大潟村村民体育館において合併後初の男鹿潟上南秋支部の消防団員二九二名の教養研修が行われた。

米屋支部長のあいさつにはじまり、開催地の黒瀬大潟村長の歓迎のあいさつでは、これからの社会には、消防団の活動を通じ、どれだけ郷土を思い、考えて行動するかによって活性化に結びつく、している住民の評価につながるものと認識している。いろいろな災害が起こっており、住民が安心を得られるために、地域での安全・安心のため、いざという時に行動を起こす団員に期待す

平成十七年度消防車両交付式

秋田市消防団に指令車が交付される

平成十八年二月九日、東京都の虎ノ門パストラルを会場に、財団法人日本消防協会・生活協同組合全日本消防人共済会では、各種共済事業の振興に功績が多である14道県の消防本部・消防団に消防車両の司令車が交付されました。本年度は秋田市消防団が指令車(ジープ)の交付対象となり、秋田県消防協会佐々木事務局長が代理受領されました。



理部・年金部長の小野尚武氏より「消防の必要性について」の講演と「互助年金と火災共済」について、また、福祉部主幹の柳橋勉氏より「福祉共済」について説明を受けた。その後には訓練礼式が行われた。

るものであり、そのためには団員自らの意識を高めることを期待するものである。人間的つきあいは、いざという時のため大事であると話された。日本消防協会消防互助年金事業団管

大館北秋田支部主催

平成十七年度 中堅幹部及び初任団員研修開催



平成十八年二月二十七日、北秋田中央公民館において百四十名の団員が中堅幹部と初任団員に分かれ教養研修が行われた。中堅幹部では消防団の沿革、団員の身分、団員の仕事、団員の処遇、団員の権限、火災防ぎよ活動について、初任団員は規律訓練について行った。消防団員の老後生活のためには公的保障以外に「自助努力」の準備が重要であると消防互助年金の必要性を日本消防協会消防互助年金事業団の青柳吾朗氏から説明を受けた。

午後からは会場を北秋田市鷹巣体育館に移し実技研修が行われた。



消防 半天・帯・団旗
優勝旗・ゼッケン
手拭・タオル・のれん
旗幕類名入染物専門

寺 田 染 工 場

横手市清川町 ☎32-0416

地域の防災、災害対策に貢献!

消 防
ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設 備
火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目10番9号 TEL018 (863) 1551(代)
猿田興業ビル7F FAX018 (824) 3651

森田ポンプ ラビットポンプ
桜ホース・ソフト吸管 消防被服一式
各種消火器 消防機器一式

株式会社 **協 立**
株式会社 **能代消防センター**

〒016-0846 能代市栄町12の3
TEL (0185) (52)6361
(52)6494